

私の学校を紹介します

語順に注意して文を作る 一文の構造

Unit 1
1 私の学校を紹介します
語順に注意して文を作る 一文の構造

Target 綾が自分の学校を紹介しています。

I am a first-year student at Sakura High School in Shizuoka. Sakura High School is sixty years old. There are about 800 students. It stands on a hill. I go to school by bus every day. My homeroom teacher is Ms. Oka. ① She teaches us English. ② We call her Miho-sensei. I like Miho-sensei very much.

① 先生は私たちに英語を教えてください。
② 私たちは先生を美穂先生と呼んでいます。

Listen 綾が留学生のジムにアメリカの高校について尋ねています。ジムのアメリカの高校について、正しいほうを○で囲みなさい。

1. 創立された年	1914年	1940年
2. 生徒数	約500人	約800人
3. 担任の先生	いる	いない
4. 相談する先生	担任の先生	カウンセラーの先生

Let's Talk ベアになって対話をしましょう。
1. How do you come to school?
2. What is your favorite subject?

Part 1 11

● 本課の目標

自分が通う高校について、簡単な英語を使って口頭で説明し、さらに書けるようにする。具体的には学校の所在地、生徒数、創立年などの客観的な情報と、通学方法、担任の先生と教えている教科、担任の先生の愛称、自分が好きな教科など学校と生徒との関わりという2点について表現できるように練習し、最終的なタスクとして学校のウェブサイト作成を用意してある。

Grammar Focus として「文の構造」、いわゆる「5文型」に習熟し、特に語順に注意しながら英語で表現できるように指導する。

● 本課の学習項目

▶ Topic：学校生活

▶ Grammar Focus (GF)：文の構造

GF 1：SV／SVC／SVO

GF 2：SVOO／SVO + to/for ～／SVOC

▶ Grammar for Expression (Can-Do)

SV／SVC／SVO を使って友人を紹介する

SVOO／SVOC を使って感想を述べる

▶ From Grammar to Communication

学校のウェブサイトを作る

● 中学校での学習内容 (Grammar Focus)

- ・中学校では5文型をすべて学習しているが、目的語、補語、自動詞、他動詞などの用語や、S/V/O/Cの記号などは基本的には未習と考えて指導した方がよいだろう。
- ・SV, SV (be 動詞) C, SVO：中学1年で学習。SV (be 動詞以外) C, SVOO：中学2年で学習。SVOC：中学2年か3年で学習する教科書が多い。
- ・SV (be 動詞以外) C で用いられる動詞は、look, become, get を中心に学習している。SVOO で用いられる動詞で学習しているのは、give, show, tell など、SVOC で用いられる動詞は、call, name, make などである。
- ・SVOO を SVO + to / for ～に書き換える際の動詞の区別については中学では学習していない。

Target

● 英文

I am a first-year student at Sakura High School in Shizuoka. Sakura High School is sixty years old. There are about 800 students. It **stands** on a hill. I go to school by bus every day. My homeroom teacher **is** Ms. Oka. ① She **teaches** us English. ② We **call** her Miho-sensei. I **like** Miho-sensei very much.

● 訳例

私は静岡にあるさくら高校の1年生です。さくら高校は創立60年です。約800人の生徒が在籍しています。さくら高校は丘の上に立っています。私は毎日バスで通学しています。私の担任の先生は岡先生です。先生は私たちに英語を教えてください。私たちは先生を美穂先生と呼んでいます。私は美穂先生が大好きです。

● 語句・表現

I. 1 a first-year student at Sakura High School

もともと study at Sakura High School であるものを名詞化して、a student at Sakura High School としたもの。日本語につられて、of を使わないように注意する。

I. 2 Sakura High School is sixty years old.

人だけでなく、建造物などについても～ years old という形を用いることに注意する。

・This tree is estimated to be *more than 100 years old*. (この木は樹齢100年以上だと推定される)

I. 3 It stands on a hill.

日本語の「立っている」に対して、現在形 stands を使う。現在進行形を使って、is standing とすると、一時的なことになりおかしい。

cf. I teach English at a high school. (私は高校で英語を教えています)

I. 4 go to school by bus

交通手段を表すときには by ～ を使う。交通手段は抽象的なことを表し、バス1台をイメージしているわけではないので、冠詞をその後につけない。

cf. get on a bus 「バスに乗る」

I. 4 My homeroom teacher is Ms. Oka.

「担任の先生」は「ホームルームを担当している先生」と考え、homeroom teacher とする。高校生は、in charge of my class などとしがちだが、この表現は通常使わない。「岡先生」を Oka Teacher とは言わず、Mr. / Ms. を使う。最近では性別に中立な表現の Mx ([mɪks] あるいは [mæks]) と発音するも見られる。

Listen

● 指導のポイント

綾がジムにアメリカの学校について尋ねている。綾の質問にジムがどのように答えているのかを特に注意して聞き、要点をメモするように指導する。音声を聞かせる前に何を聞き取ればよいのかを選択肢を見て確認させ、特に数字に注目させたい。生徒の状況に応じて、事前に1914/1940、500/800の数字を発音練習しておくことも有効であろう。

● 音声スクリプト

Aya: Hi, Jim! How is your school life in Japan?
Jim: It's OK, but I still don't know many students in our class.
Aya: What's your school in the U.S. like?
Jim: Our school was built in 1940. It's a very old school. There are about 500 students.
Aya: How many homerooms are there?
Jim: We don't have homerooms. We move from class to class.
Aya: Really? Then, who do you talk with when you have a problem at school?
Jim: We usually talk with a counselor. The counselor, Ms. Smith, is always ready to talk with us.
Aya: That's interesting.

● 訳例

綾：こんにちは、ジム！日本での学校生活はどう？
ジム：問題はないけど、クラスの生徒で知らない人がまだたくさんいるんだ。
綾：あなたのアメリカの学校はどんな感じなの？
ジム：僕たちの学校は1940年に建てられたんだ。とても古い学校だよ。約500人の生徒がいるんだ。
綾：ホームルームはどれくらいあるの？
ジム：ホームルームはないんだ。授業ごとに教室を移動するんだ。
綾：本当に？それじゃあ、学校で何か問題があるときにはだれと話すの？
ジム：たいていカウンセラーと話すよ。カウンセラーのスミスさんはいつも喜んで相談にのってくれるよ。
綾：おもしろいね。

● 解答

1. 創立された年：1940年
2. 生徒数：約500人
3. 担任の先生：いない
4. 相談する先生：カウンセラーの先生

● 語句・表現

L 1 How is your school life in Japan?

How is S? は、主語 (S) について「どんな具合 [状態] か」と様子や状態を尋ねる表現。

L 4 What's your school in the U.S. like?

What is S like? は、主語 (S) が「どのようなもの [人] であるか」を尋ねる表現。

・ *What are Dan's parents like?* (LDOCE) (ダンの両親はどんな人ですか)

L 8 We move from class to class.

from A to B で、A と B が同じ語の場合は、冠詞をつけない。

L 10 Who do you talk with ...?

「だれと～するか?」という場合、Who ～ with? と with を文末に置く表現を定着させたい。With whom do you talk? という表現は堅い言い方なので避けたい。

L 12 The counselor, Ms. Smith, is ready to talk with us.

be ready to *do* で「喜んで～する」の意味を表す。be happy to *do* も同様に使うことができる。一方、be willing to *do* は「～することをいとわない」という意味で、ニュアンスが異なる。

Let's Talk

● 指導の手順

- 1. 通学の方法や科目の英語での言い方など、事前に調べさせる必要がある。科目の言い方については、教科書 p. 137, Useful Vocabulary の「授業科目」を参照。
- 2. ペアになり、互いに Let's Talk の質問をして対話をする。
- 3. 余裕があれば、下記の発展例を参考にして、対話を続けるようにするとよい。

● 解答例

Question 1

- ・ How do you come to school?
— I come to school by train and bus.
— I come to school by bicycle.
— I walk to school.

Question 2

- ・ What is your favorite subject?
— My favorite subject is PE.
— My favorite subjects are math and physics.

● 発展例

数名の生徒に以下の質問をして、Let's Talk の内容をさらに発展させた対話を行う。

Question 1

- T: How do you come to school?
S1: On foot.
T: Oh, you walk to school? Do you live near the school?
S1: Yes.
T: Where do you live?
S1: I live in a mansion near the school.
T: You live in a condominium. マンション is very different from a mansion in English. A mansion means a very large house in English.
OK. How about you? How do you come to school?
S2: By subway.
T: You come to school by subway. How long does it take?
S2: Fifty minutes.

Question 2

- T: What is your favorite subject?
S1: I like PE.
T: How about you? What is your favorite subject?
S2: My favorite subject is Japanese and math.
T: My favorite subjects are You like two subjects, right?
S2: My favorite subjects are Japanese and math.
T: Good. Why do you like math?
S2: The teacher is interesting.
T: Who is your math teacher?
S2: Kobayashi Teacher.
T: Oh, I see. He is a good teacher. Say Mr. Kobayashi ...
S2: Mr. Kobayashi is interesting.

Grammar Focus 1

文の構造 1

A SV (主語+動詞)

- 1. My aunt **works** in Nagoya.
私のおばは名古屋で働いています。
- 2. The first train **leaves** at five.
始発電車は 5 時に出発します。
- 3. My friend **sings** very well.
私の友人は歌がとても上手です。

● 解説

主語 (S) と動詞 (V) だけで意味が成り立つ文。実際には、〈S + V〉だけで完結することは少なく、動詞の後には、「場所」を表す副詞句と「時」を表す副詞句がこの順で置かれることが多い。また、動詞が現在形の場合、現在の習慣的な動作・反復的な出来事を表すことが多い。5 文型の考え方では、副詞や〈前置詞 + 名詞〉を修飾語句として文の主要素と見なさないが、副詞や副詞句がどのような順序で、どの位置に置かれるかは重要である。

これを補うものが京都大学の田地野彰先生が提唱される『『意味順』英語学習法』である。これは「だれが／する (です)／だれ・なに／どこ／いつ」の順で語句を並べかえれば、英文が完成するというもの。「いつ」の後にオプションとして「どのように (して)／なぜ」がつくこともある。「意味順」は修飾語句もカバーしており、5 文型を補うものとして有用である。『〈意味順〉英作文のすすめ』(岩波ジュニア新書、2011 年) が高校生用にお勧めである。これを使って教科書の例文を分析すると、次のようになる。

- 1. My aunt works in Nagoya. (だれが／する／どこ)
- 2. The first train leaves at five. (だれが = モノ／する／いつ)
- 3. My friend sings very well. (だれが／する／どのように)

B SVC (主語+動詞+補語)

- 4. My uncle **is** a painter.
私のおじは画家です。
- 5. I **get** hungry in the morning.
午前中はおなかがすきます。

Grammar Focus 1 文の構造 1	
A SV (主語+動詞)	
1. My aunt ^S works ^V in Nagoya. 私のおばは名古屋で働いています。	S + V + 場所を表す語句
2. The first train ^S leaves ^V at five. 始発電車は 5 時に出発します。	S + V + 時を表す語句
3. My friend ^S sings ^V very well. 私の友人は歌がとても上手です。	S + V + 修飾を表す語句
主語 (S) と動詞 (V) だけで意味が成り立つ文。主語と動詞以外にいろいろな修飾語 (in Nagoya, at five, very well) がつくことが多い。	
B SVC (主語+動詞+補語)	
4. My uncle ^S is ^V a painter ^C . 私のおじは画家です。	～である
5. I ^S get ^V hungry ^C in the morning. 午前中はおなかがすきます。	～になる
6. I ^S don't feel good ^V this morning. 今朝は気分がよくありません。	～の感じがする
7. She ^S looks ^V happy ^C today. 彼女は今日うれしそうに見えます。	～に見える
主語と動詞の後に、主語について説明する語 (= 補語) が続く。補語になるのは形容詞か名詞である。 4. 状態の継続を表す動詞: be, keep (～のままである), remain (～のままである) 5. 状態の変化を表す動詞: get, become (～になる), grow (～になる), turn (～になる) 6. 感覚を表す動詞: feel, smell (～においがする), taste (～の味がする), sound (～に聞こえる) 7. 外見を表す動詞: look, seem (～に見える), appear (～に見える)	
C SVO (主語+動詞+目的語)	
8. I ^S bought ^V a new shirt ^O . 私は新しいシャツを買いました。	I = a new shirt
9. He ^S got ^V a lot of presents ^O . 彼はたくさんのお礼を受け取りました。	He = a lot of presents
cf. He ^S got ^V angry ^C . 彼は腹を立てました。 He = angry の関係が成り立つ	
主語と動詞の後に、動詞の対象となる語句 (= 目的語) が続く。目的語になるのは名詞か代名詞である。	

- 6. I don't **feel** good this morning.
今朝は気分がよくありません。
- 7. She **looks** happy today.
彼女は今日うれしそうに見えます。

● 解説

SVC のパターンをとる動詞のうち、生徒が中学校時代になじんでいるものは be, get, become, feel, look くらいである。教科書で例示されている動詞の数が多いので、〈動詞 + 形容詞〉のチャンクで少しずつ慣れさせるようにしたい。また、SVC のパターンをとる動詞はどんなものでも、〈S = C〉(厳密には、S is C. と動詞を be 動詞で置き換えられること) の形になっていることをしっかりとつかませたい。高校生にとっては、「補語」(C) という文法用語はつかみにくい。文法用語に振り回されずに、A is B. という形が成り立つときに、A を主語、B を補語とすることを教えるとわかりやすい。

▶ 状態の継続を表す動詞

To talk about things not changing, we can use *stay*, *keep* or *remain* before adjectives. *Remain* is

more formal.

- ・ How do you manage to **stay young** and **fit**?
- ・ **Keep calm**.
- ・ I hope you will always **remain** so **charming**.

Stay and *remain* are also sometimes used before noun phrases.

- ・ Promise me you will always **stay** / **remain** my **little boy**.

(PEU)

▶ 状態の変化を表す動詞

以下に、*Practical English Usage* を参考に、それぞれの動詞が表すニュアンスの違いをまとめる。

become	形容詞／名詞句とともに使う	・ <i>become</i> dark ・ <i>become</i> a pilot
get	形容詞とともに使う	・ <i>get</i> dark ・ <i>get</i> younger
go	・ go + 色 ・ 悪い方への変化	・ <i>go</i> red ・ <i>go</i> mad
come	首尾よく終わることについて使う	・ <i>come</i> true ・ <i>come</i> right
grow	ゆっくりとした変化を表す。formal な用法	・ <i>grow</i> old
turn	目に見えるはっきりとした変化を表す ・ turn + 色 ・ turn + 年齢	・ <i>turn</i> red ・ <i>turn</i> fifty

▶ 感覚・外見を表す動詞

『教師のためのロイヤル英文法』から〈動詞＋形容詞〉の連結を引用する。

① 感覚を表す

- ・ **feel** rough / smooth / soft / warm / tired / better / happy
- ・ **sound** interesting / difficult / easy / odd / sweet / unlikely / alike / angry
- ・ **smell** good / nice / sweet / bad / crazy / horrible / nasty
- ・ **taste** salty / bitter / sweet / good / delicious / (un)pleasant / (un)usual / horrible / bad / nasty / strong

② 外見を表す

- ・ **look** (視覚的) tired / pale / serious / surprised / excited / sad / well / young / good / delicious / interesting / pretty / heavy
- ・ **seem** (主観的) silly / nice / strange / funny / different / curious
- ・ **appear** (中間的) happy / sad / satisfied / ill / different / wrong

C SVO (主語＋動詞＋目的語)

8. I **bought** a new shirt.

私は新しいシャツを買いました。

9. He **got** a lot of presents.

彼はたくさんの贈り物を受け取りました。

cf. He **got** angry.

彼は腹を立てました。

● 解説

英語でもっとも代表的な文型。主語と動詞の後に、動詞の対象となる語句 (= 目的語) が続く。目的語になるのは名詞か代名詞である。

目的語 (O) と補語 (C) の見分け方
1. 形容詞は目的語になれない。 → 〈S＋V〉の後が形容詞なら補語。 ・ He kept silent during the meeting. (彼は会議の間、ずっと黙っていた)
2. 〈S＋V〉の後に名詞が続く場合、補語ならば〈S＝C〉、目的語ならば〈S≠O〉の関係になる。 ・ He is a good coach. 〈He＝a good coach〉(彼はよいコーチだ) ・ He needs a good coach. 〈He≠a good coach〉(彼はよいコーチを必要としている)

▶ 自動詞と他動詞

目的語を「～を」と日本語に直して教えるのは危険である。以下は高校生によく見られる誤り。

- ・ 音楽を聞く → × listen music
listen は自動詞なので、次に目的語を直接続けることができない。〈自動詞＋前置詞＋名詞〉となる。→ listen *to music*
- ・ 楽しかった → × I enjoyed.
enjoy は他動詞なので、目的語が必要。具体的に

何を楽しんだかを書く。→ I enjoyed *the movie*.

自動詞、他動詞に関しては教科書 p.9, Unit 0 「英語の基本構造」の「動詞」を参照していただきたい。また、marry a classmate (級友と結婚する), discuss the problem (その問題について話し合う), graduate from a university (大学を卒業する) などの例はここで一度に出さずに、その動詞が出てきたところで説明し、ある程度まとまったところで整理すると効果的である。

自動詞と他動詞を間違えやすい動詞
<p>■ 〈他動詞＋名詞〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>enter</i> the room (部屋に入る) ・ <i>reach</i> the destination (目的地に着く) ・ <i>marry</i> a former classmate (かつての級友と結婚する) ・ <i>discuss</i> the problem (その問題について話し合う) ・ <i>resemble</i> her mother (母親に似ている) <p>■ 〈自動詞＋前置詞＋名詞〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>graduate from</i> a university (大学を卒業する) ・ <i>arrive at</i> / <i>get to</i> the destination (目的地に着く) ・ <i>talk about</i> the problem (その問題について話し合う) ・ <i>look like</i> her mother (母親に似ている)

江川泰一郎による次の分析は秀逸である：

高校生が上のような approach, enter, leave, reach などを自動詞と誤認するのは、これらの動詞が自動詞的な運動を表すからである。日本語の感覚では接近・出入・出発・到着の場所を動作の対象とは考えにくい。

(『英文法解説』)

自動詞と他動詞の違いについて簡単に説明した後、上にあるような語句のチャンクで口慣らしをしながら、実際に使えるように指導したい。

Drills

1

● 解答

1. I [come to school by bus].
2. Our school [is next to a large park].
3. The bus [stops at the school gate].
4. [Our school starts at eight thirty].

● 訳例・解説

すべて第1文型だが、「交通手段、場所、時」などを表す副詞句を伴っていることに注意させる。単に答え合わせをするだけでなく、1~4で1つのdiscourse(談話)を形成しているので、生徒に語句を入れ替えて自分のことを表現させる練習をした

1. 訳 私はバスで通学しています。
2. 訳 私たちの学校は大きな公園の隣にあります。
3. 訳 バスは校門のところに止まります。
4. 訳 学校は8時半に始まります。

3, 4における前置詞 at の使い方に注意させる。場所を表す at は「点」を表す。「～のところに」の意味。時を表す at は時刻とともに使う。日本語で「8時半から」と言うが、from を使わないようにしたい。

▶ 場所を表す表現

- ・ on the hill 「丘の上に」(on は「接触」を表す)
- ・ in the classroom 「教室の中に」(in は「(空間的)広がり」を表す)
- ・ at the door 「ドア[玄関]の所に」(at は「点」を表す)
- ・ outside [inside] the teachers' room 「職員室の外[中]に」
- ・ next to the broadcasting room 「放送室のとなりに」
- ・ across from the conference room 「会議室の向かいに」
- ・ between the reception room and the principal's office 「応接室と校長室の間に」
- ・ near [a long way from] the station 「駅の近く[遠く]に」
- ・ by the Tone River 「利根川のそばに」
- ・ in front of [behind] the school building 「校舎の前

Drills

1 [] 内の語句を並べかえて、英文を完成しなさい。

1. I [by bus / come / school / to].
2. Our school [a large park / to / is / next].
3. The bus [stops / the school gate / at].
4. [at / starts / our school / eight thirty].

2 絵の内容に合うように、() に入る語を下の [a] [b] から選びなさい。



1. What's wrong? You (a) (b).
2. These flowers (a) (b).
3. I don't like these dishes. They (a) too (b).
4. Could you turn off the air conditioner? I (a) (b) in here.
[a] [taste, smell, look, feel] [b] [sick, hot, cold, good]

3 次の文の () に入る動詞を下から選びなさい。

1. We () six classes every day.
2. The next class is PE. We must () our clothes.
3. I often () dramas on TV.
4. Mr. and Mrs. White live next to us. They () Japanese well.
[change have speak watch]

4 日本語に合うように英文を完成し、ペアになって対話しなさい。 Grammar in Context

- Jim Your grandmother [young / very / looks]. How old is she?
君のおばあさんはとても若く見えるね。いくつなの。
- Aya She is sixty-five. She enjoys sports. [the pool / she / swims / in] twice a week.
On weekends, she [her friends / with / hiking / enjoys].
65歳上。スポーツが好きで、週に2回プールで泳いでいるわ。週末には、友だちとハイキングを楽しんでいるの。

Grammar for Expression Can-Do 友人を紹介する

下線部を置き換えて、あなたの中学校時代の友人を紹介しなさい。
I'm going to tell you about my friend Yūko. Yūko and I went to the same junior high school.
She enjoys playing volleyball.

[裏] に

・ around the school 「学校のまわりに」

2

● 解答

1. What's wrong? You (look) (sick).
2. These flowers (smell) (good).
3. I don't like these dishes. They (taste) too (hot).
4. Could you turn off the air conditioner? I (feel) (cold) in here.

● 訳例・解説

高校生は第2文型で英文を書く際に、be動詞を使いがちである。ここでは、〈be動詞以外の動詞＋形容詞〉をセットにして、多様な表現ができることを生徒に認識させ、できるだけ多くのセットフレーズがすぐ口をついて出てくるように練習させたい。例えば、動詞 taste を固定して、taste good [bad / sweet / bitter / sour / spicy] のように表現の幅を広げることができるし、形容詞 good を固定すれば、smell [taste / sound] good と展開できる。1~4の設問に関しては、イラストを見てそれぞれ人間の五

感のどれを使っているかをきちんとつかませるようにしたい。

1. 訳 どうしたの。気分が悪そうに見えます。
2. 訳 これらの花は香りがいい。
3. 訳 これらの料理は好きじゃない。辛すぎる。
too は「限度を超えて良くない、～過ぎる」という否定的なニュアンスを表す。
4. 訳 クーラーを切っていただけますか。ここは寒く感じます。

生徒は、日本語を直訳して、This room is cold. などと場所を主語にして表現しがちだが、英語では、I feel cold in this room. などと I を主語にして主観的に表現するか、it を主語にして It is cold in this room. などと表すことを教えたい。

3

● 解答

1. We (have) six classes every day.
2. The next class is PE. We must (change) our clothes.
3. I often (watch) dramas on TV.
4. Mr. and Mrs. White live next to us. They (speak) Japanese well.

● 訳例・解説

1. 訳 毎日6時間授業がある。
人を主語にした have の使い方は多様である。次の例を参照されたい。
・ I have two brothers and a sister.
・ We have a lot of snow around here in winter.
2. 訳 次の時間は体育だ。服を着替えなくてはいけない。
PE は physical education の略。
3. 訳 私はよくテレビでドラマを見る。
watch ～ on TV でチャンクとして押さえる。
watch は「動きのあるものをじっと見る」というニュアンスがある。cf. watch ～ on DVD, listen to ～ on the radio (watch も listen to ～も、意志を持って「見る[耳を傾ける]」の意味。)
often など頻度を表す副詞は、一般動詞の前、つまり S と V の間にくる。
4. 訳 ホワイト夫妻は私たちの隣に住んでいる。日本語を上手に話す。

4

● 解答

- Jim: Your grandmother [looks very young]. How old is she?
- Aya: She is sixty-five. She enjoys sports. [She swims in the pool] twice a week. On weekends, she [enjoys hiking with her friends].

● 解説

Grammar Focus の文構造を使用した具体的な場面が設定されている。解答をチェックした後、ペアで対話の練習をしたり、自分の家族のことに置き換えて即興で言う練習をしていただきたい。

表現例

My grandfather is seventy. He enjoys walking. He walks about two kilometers every day. On Saturdays, he enjoys tennis with his friends. He is very active.

Grammar for Expression

Can-Do 友人を紹介する

● 解答例

I'm going to tell you about my friend Yumi. Yumi and I went to the same junior high school. She enjoys swimming.

● 発展活動 ①

ペアで友人についていくつか質問のやりとりをする。ニックネーム、性格、趣味、得意なことなどのほかに家族やペットなどに話題を広げてよい。

質問例

- ・ What is your friend's nickname?
- ・ What is he / she like? — He / She is friendly [kind / quiet / active / serious].
- ・ What does he / she enjoy doing (in his / her free time)?
- ・ What is he / she good at?

● 発展活動 ②

下線部を置き換えた解答例に1文をプラスする。

特に解答例の最後の英文につけ加えるとよい。

表現例

I'm going to tell you about my friend Yumi. Yumi and I went to the same junior high school. She enjoys swimming. She was a member of the swimming team.

発展活動 ③

下線部を置き換えるだけでなく自由に表現する。

表現例

・ Taiki is a friend of mine. He is 180 centimeters tall. He is good at basketball. His high jumps and dunk shots are exciting.

・ Genki is my best friend. He enjoys playing soccer and loves to teach soccer to small children. His teaching skills are great.

Grammar Focus 2

文の構造 2

A SVOO (主語+動詞+目的語+目的語)

1. I **gave** my mother some flowers.
私は母に花をあげました。
2. My mother **bought** me this bike.
母は私にこの自転車を買ってくれました。

解説

述語動詞の後に2つの目的語を必要とする文型。2つの目的語の順序は必ず〈人に+物を〉の順序になる。

- ・ Mr. Tanaka **teaches** us PE. (田中先生は私たちに体育を教えてください)
- ・ I will **give** you my email address. (君に私のメールアドレスを教えるよ)

B SVO+to / for ~

3. I **gave** some flowers **to** my mother.
私は花を母にあげました。
4. My mother **bought** this bike **for** me.
母はこの自転車を私に買ってくれました。

解説

▶ SVO + to ~と SVO + for ~

SVOO の文を〈SVO (物)+to / for + 人〉という形でも表現することができる。教科書のAの表の1の動詞では、to は「到着点」を示し、「その物が相手に届く」ということを表している。2の動詞では、for は「~のために、~の代わりに」という意味を表す。I **gave** some flowers **to** my mother. では花が母に届いているのに対して、My mother **bought** this bike **for** me. では自転車が私に届いているかは問題ではなく、「私のために」買ったという意味を表す。これを前置詞 to と for の表すイメージと合わせて考えるとわかりやすい。



『現代英文法講義』では to を伴うものを「受領者」

Grammar Focus 2 文の構造 2

A SVOO (主語+動詞+目的語+目的語)

1. I gave my mother some flowers. 私は母に花をあげました。 give + O₁(人) + O₂(物)

2. My mother bought me this bike. 母は私にこの自転車を買ってくれました。 buy + O₁(人) + O₂(物)

主語と動詞の後に「人」(～に)を表す語と「物」(～を)を表す語が続く。以下の動詞が用いられる。

1	人のもとに何かを移動する	give (与える), lend (貸す), send (送る), show (示す), teach (教える), tell (告げる)
2	人のために何かをする	buy (買う), cook (料理する), get (手に入れる), make (作る)

B SVO+to / for ~

3. I gave some flowers to my mother. 私は花を母にあげました。 give + O (物) + to + 人

4. My mother bought this bike for me. 母はこの自転車を私に買ってくれました。 buy + O (物) + for + 人

〈SVO₁(人)O₂(物)〉の文の内容を、〈SVO(物)+to+人〉または〈SVO(物)+for+人〉の文で表すことができる。to は「～に」, for は「～のために」という意味を表す。Bの表の1の動詞は to を使い、2の動詞は for を使う。

C SVOC (主語+動詞+目的語+補語)

5. This drama made her famous. このドラマが彼女を有名にしました。 cf. She was famous.

6. Everyone calls her Aya. みんなは彼女をAと呼びます。 cf. She is Aya.

7. I found the movie exciting. 私はその映画がわくわくするものだと思いました。 cf. The movie was exciting.

主語と動詞の後に、目的語と目的語について説明する語(=補語)が続く。以下の動詞が用いられる。OとCには、O is C (O=C)の関係が成り立つ。

5	make (～を～にする), keep (～を…の状態に保つ), leave (～を…の状態にしておく)
6	call (～を…と呼ぶ), name (～を…と名づける)
7	find (～が…であるとわかる), think (～は…であると思う), believe (～は…であると信じる)

最後のコソ B (SVOO)の文では、「物」を表す語を強く読みます。 B (SVO+to / for ~)の文でto / forの後に名詞が続く場合は、後にくる「人」を表す語を強く読みます。

14 Part 1

(recipient), forを伴うものを「受益者」(benefactive)としている。また、『英語のしくみ』を5日間で完全マスターする本』には、「相手が必要な行為にはtoを、一人のできる行為にはforを使うと覚えておけば実用上はほぼ間に合います」という指摘もある。

▶ SVOO と SVO + to / for ~

SVOO と SVO+to / for ~が表す内容は完全にイコールではなく、それぞれ次のような疑問文の答えとなる。

- ・ What did you give (to) your mother?
— I gave her (= my mother) *some flowers*.
- ・ Who did you give some flowers to?
— I gave them (= some flowers) *to my mother*.
- ・ What did your mother buy (for) you?
— My mother bought me *this bike*.
- ・ Who did your mother buy this bike for?
— My mother bought it (= this bike) *for me*.

つまり、SVOO と SVO+to / for ~の英文では情報構造が異なっており、文末にくる「新情報」が重要な情報となる(文末焦点: end-focus)。

- ・ I gave my mother some flowers.
旧情報 新情報
「私が母にあげたのは花だった」という意味。
- ・ I gave some flowers to my mother.
旧情報 新情報
「私が花をあげたのは母だった」という意味。
- ・ My mother bought me this bike.
旧情報 新情報
- ・ My mother bought this bike for me.
旧情報 新情報

教科書 p.14 の「音読のコツ」の記述はこのことをふまえたものである。目的語が it や them のような代名詞の場合は、SVO + to / for 〜の形がふつう。これも情報構造を考えると、当然のことと言える。

- ・ Give it to me. (それを私にください)
- ・ × Give me it.

C SVOC (主語+動詞+目的語+補語)

- This drama **made** her famous.
このドラマが彼女を有名にしました。
- Everyone **calls** her Aya.
みんなは彼女を綾と呼びます。
- I **found** the movie exciting.
私はその映画がわくわくするものだと思いました。

● 解説

SVOC の文型をとる動詞のうち、中学校の教科書 6 種類で共通して使われているのは、call と make のみで、call me Ken / make you happy などのチャンクとして学習していることも多い。本教科書ではこれ以外にたくさんの動詞が出てくるが、一度に提示しても生徒には過多に感じられる。この文型の共通要素を確認させながら、一つひとつ丁寧に使い方を説明して、定着をはかりたい。

まず、以下の SVOC の文型の共通要素をしっかりとつかませる。

- ① 必ず、SV (O is C.) という関係になっている。
- ② SVC の場合と同様に、C (補語) になるのは名詞または形容詞である。

例文 5 に関する動詞 make, keep, leave は、その基本的な意味を理解しておく使いやすい。

make: 手を加えて何かを作る
keep: 比較的長い間保つ
leave: ある状態を放置して、自分はその場を離れる

- ・ This drama **made** her famous.
→ This drama **made** (she *was* famous).
彼女が有名になるという状況をこのドラマが作り出したということ。
- ・ We should **keep** this room warm for the next meeting.
→ We should **keep** (this room *is* warm for the next meeting).
この部屋が暖かいという状態を保つということ。
- ・ Ken **left** the windows in his room open.
→ Ken **left** (the windows in his room *were* open).
部屋の窓を開けた状態を放置して、部屋を出て行ったということ。

例文 7 に関する動詞のうち、think, believe については、SVOC よりも以下の形 (think / believe + that 節, think / believe + O + 不定詞) の方がふつう。SVOC の形は recognition level にとどめておいて十分であろう。

- ・ I believe *Ken a genius*. (△)
- ・ I believe (*that*) *Ken is a genius*. (○)
- ・ I believe *Ken to be a genius*. (○)

● 指導上のヒント①

SVOC の英文の前に、英文を付け加えることで、その英文が使われる状況を明確に示す。単文ではその状況を日本語訳に頼りがちであるが、こうすることによって使用場面を明確化することができる。教科書 p.15 にある Drills もこのことを意識して作問したものである。

- ・ The manager **made** him captain of the baseball team.
→ *Shota has leadership, so* the manager **made** him captain of the baseball team. (翔太にはリーダーシップがあるので、監督は彼を野球部のキャプテンにした)

● 指導上のヒント②

call me Ken / make you happy のようなチャンクを示し、何回も音読したり、ペア活動をするなどして定着させる。

- ・ **name** her Yumi
- ・ **keep** the room warm
- ・ **leave** the windows open
- ・ **find** the book interesting

Drills

1

● 解答

1. My father [cooks us breakfast] every morning.
2. Let's keep in touch. I'll [give you my email address].
3. Excuse me. Could you [tell me the way to the station], please?
4. Can you [get me some bread] when you go out?

● 訳例・解説

1. 訳 父は毎朝、私たちに朝食を作ってくれます。
2. 訳 連絡を取り合おう。メールアドレスを教えるから。

keep in touch: to have the latest information or knowledge about something (LDOCE) stay in touch も同義。

3. 訳 すみません。駅までの道を教えていただけますか。

この場合のように、単に情報を与えるときには、「教える」といっても teach ではなく tell を使う。the way to the station の語順を間違える生徒がいる。〈前置詞＋名詞〉が形容詞的に使われるときには名詞の後に置かれるという英語の特徴に注意。
cf. the future of Japan (日本の将来)

4. 訳 出かけたとき、パンを買ってきてくれる？

get は、この場合 buy の意味。

- 3, 4 の Could you ...? と Can you ...? の違いについては次の指摘が役立つ：

ていねいさの度合いはおおよそ、Could you ...? > Can you ...? > Would you ...? > Will you ...? となる。Could you ...? と Can you ...? は依頼表現で、聞き手は No と断れるが、Would you ...? と Will you ...? は指示表現で、断りにくい。

(ジーニアス)


2

● 解答

1. (a) I lent my friend the best-selling book.
(b) I lent the best-selling book to my friend.
2. (a) He bought his sister a nice sweater.
(b) He bought a nice sweater for his sister.
3. (a) I sent my grandmother a Christmas card.

Drills

1 絵の内容に合うように、[] 内の語句を並べかえなさい。



1. My father [breakfast / cooks / us] every morning.
2. Let's keep in touch. I'll [my email address / give / you].
3. Excuse me. Could you [me / tell / to the station / the way], please?
4. Can you [some bread / get / me] when you go out?

2 各組の文がほぼ同じ意味になるように、英文を完成しなさい。

- (a) I lent my friend the best-selling book.
(b) I lent the best-selling book _____.
- (a) He bought his sister a nice sweater.
(b) He bought a nice sweater _____.
- (a) I sent my grandmother a Christmas card.
(b) I sent a Christmas card _____.

3 日本語に合うように、[] 内の語句を並べかえなさい。

1. Her name is Elizabeth. [her / Beth / call / her friends].
彼女の名前はエリザベスです。彼女の友だちは彼女をベスと呼びます。
2. This is just between you and me. Please [it / keep / a secret].
これはあなたと私の間だけのことです。秘密にしてください。
3. At first the math exam looked hard, but I [easy / found / it].
最初は、数学の試験が難しく見えたが、やさしかった。

4 日本語に合うように英文を完成し、声に出して読みなさい。

Grammar in Context

1. [my grandfather / me / named] Yuko.
私の祖父が私を祐子と名づけてくれました。
2. He often [interesting stories / me / told] when I was small.
私が小さかったころ、祖父はよく私におもしろい話をしてくれました。
3. I [a birthday present / him / give] every year.
私は毎年、祖父に誕生日プレゼントを贈ります。

Grammar for Expression Can-Do 感想を述べる

下線部を書き換えて、プレゼントの感想を言いなさい。
My parents bought me a pair of sneakers for my birthday. I found them so stylish.

- (b) I sent a Christmas card to my grandmother.

● 訳例・解説

1. 訳 私は友人にベストセラーの本を貸した。
2. 訳 彼は妹に素敵なセーターを買った。
3. 訳 私は祖母にクリスマスカードを送った。

1, 3 では「本が友だちの元に届いた」「クリスマスカードが祖母の元に届いた」というニュアンスがあり、to を使う。これに対して、2 では「セーターを妹のために買った」ということで、「セーターが妹の元に届いた」ということは言っていないので、for を使う。このように、to と for のどちらを使うかに焦点が当たりがちになるが、(a)、(b) の各英文を答えとして導く疑問文を生徒に考えさせていただきたい。こうすることで、どういう場面でどちらの表現を使ったらよいかという判断がつくようになる。

1. (a) What did you lend (to) your friend?
— I lent my friend the best-selling book.
(b) Who did you lend the best-selling book to?
— I lent the best-selling book to my friend.
2. (a) What did he buy (for) his sister?
— He bought his sister a nice sweater.

- (b) Who did he buy a nice sweater for?

— He bought a nice sweater for his sister.

3. (a) What did you send (to) your grandmother?

— I sent my grandmother a Christmas card.

- (b) Who did you send a Christmas card to?

— I sent a Christmas card to my grandmother.

3

● 解答

1. Her name is Elizabeth. [Her friends call her Beth].
2. This is just between you and me. Please [keep it a secret].
3. At first the math exam looked hard, but I [found it easy].

● 解説

1. Elizabeth の愛称はほかにも、Eliza, Betty, Betsie, Lisa などがある。call her Beth の中に She is Beth. という関係があることに気づかせる。
2. keep it a secret で、it is a secret という状況を保つ (keep) という意味を表す。
between you and me: used before telling someone something that you do not want them to tell anyone else (LDOCE) between ourselves も同義。

3. found it easy で、it is easy という状況をわかる (find) という意味を表す。found はこのように「やってみたら (読んでみたら、見てみたら) 〜だった」という文脈でよく使われる。

4

● 解答

1. [My grandfather named me] Yuko.
2. He often [told me interesting stories] when I was small.
3. I [give him a birthday present] every year.

● 解説

Grammar Focus の文構造を使用した具体的な場面が設定されている。解答をチェックした後、ペアで対話の練習をしたり、自分の家族のことに置き換えて即興で言う練習をしていただきたい。

表現例

・ My father named me Yumi. He often took me to the nearby park when I was a child. I give him a small present on Father's Day every year.

● 発展活動

自分の名前について、その意味、好き嫌いなどに関して対話したり、表現したりする。

質問例

- ・ Why did he name you Yuko?
- ・ What does Yuko mean in English?
- ・ Do you like your first name? Why? (Why not?)

表現例

My parents named me Koichi (幸一). It is because I was the first boy in my family, and my parents wanted me to be happy. I like my name because it is easy to remember and sounds nice.

Grammar for Expression

Can-Do 感想を述べる

● 解答例

My mother bought me a pair of gloves for my birthday. I found them so warm.

教科書の例文や上の例に見られる sneakers や gloves などとは 2 つで 1 セットとなるため、複数扱いとなることに注意させる。

● 発展活動 ①

いくつか語句や文を付け加え、情報をプラスする。

My parents bought me a pair of sneakers for my birthday. They are white and look nice. I found them so stylish. I will wear them on weekends.

● 発展活動 ②

ペアでプレゼントについて対話する。その答えをつなぎ合わせて、相手の生徒について reporting をしてもよいし、まとまった英文を書いてもよい。

質問例

- I think you got presents for your birthday. What kind of present did you like the best?
- Who bought you the present?
- When did you get the present?
- How did you find the present? / What did you think of the present?

From Grammar to Communication

Creating a Website 学校のウェブサイトを作る

Task 1

● 解答例

1. Where is your school?
— Our school is in the central part [in the eastern part / in the suburbs] of Sendai City.
— Our school is near Himeji Castle.
2. How many students are there at your school?
— There are about 900 students.
3. How old is your school?
— Our school is sixty years old.
4. Who is your homeroom teacher?
— Our homeroom teacher is Mr. Masahiro Kato.
5. What subject does your homeroom teacher teach?
— He teaches (us) geography [Japanese classics / math].
6. What is your homeroom teacher's nickname?
— His nickname is Masa-sensei. / We call him Masa-sensei.
7. Write one more sentence about your school.
— Most students are looking forward to the school festival in October.
— Masa-sensei enjoys playing the guitar.

Task 2

● 解答例

About Our School

Higashi High School is 1. in the central part of Sendai City. There are 2. about 900 students. Our school is 3. sixty years old.

Special Topics

Mr. 4. Masahiro Kato is our homeroom teacher. He teaches 5. (us) geography. We call him 6. Masa-sensei. 7. Masa-sensei enjoys playing the guitar.

● 指導の手順

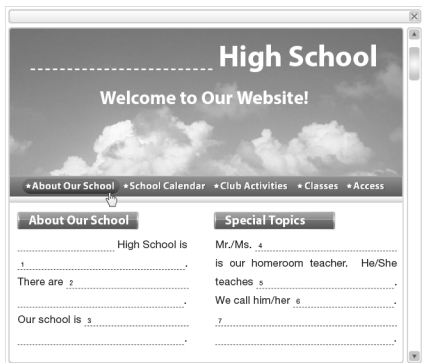
Unit 1で学んできたことをまとめて発信する活動である。教科書 p.16 のステップを踏みながら書いていけば、どの生徒にもウェブサイトが作れるように構成してあるが、答えが限定されてしまうから

From Grammar to Communication 文の構造

Creating a Website 学校のウェブサイトを作る Can-Do

- 1 あなたの高校について、以下の質問に英文で答えてみよう。
1. Where is your school?
2. How many students are there at your school?
3. How old is your school?
4. Who is your homeroom teacher?
5. What subject does your homeroom teacher teach?
6. What is your homeroom teacher's nickname?
7. Write one more sentence about your school.

- 2 1の答えをもとにして、あなたの高校の概要について、英語で簡単なウェブサイトを作成してみよう。



いもあるので、生徒の実状に応じて、さまざまな要素を取り入れ、creativeな活動にしていきたい。

1. 教科書 p.11 の Target の Sakura High School について、Q&A 活動を行う。

1. Where is your school?
— Our school stands on a hill.
2. How many students are there at your school?
— There are about 800 students.
3. How old is your school?
— Our School is sixty years old.
4. Who is your homeroom teacher?
— Our homeroom teacher is Ms. Oka.
5. What subject does your homeroom teacher teach?
— She teaches us English.
6. What is your homeroom teacher's nickname?
— We call her Miho-sensei.
7. Write one more sentence about your school.
— Most students like Miho-sensei. She is very friendly.

2. 自分たちの高校について Q&A 活動を行う。最初は口頭でやりとりをして、言えるようになった英語を書かせるようにしたい。事前に、質問 1 については場所を表す表現を教え、質問 2、3 については情報を与えておく必要がある。科目名に関しては教科書 p.137 の Useful Vocabulary を参照させる。

3. さらに、以下のような質問を与えて、英文を付け加えるように指示する。
- ・ When was your school founded?
 - ・ How can you get to school?
 - ・ How many classes are there at your school?
 - ・ How many teachers are there at your school?
 - ・ Is there a cafeteria?
 - ・ What is your school famous for?
 - ・ Does your school have any special school event?

4. 以上の情報をもとに、教科書の Task 2 にある簡単なウェブサイトを作成させる。

5. さらに、教科書にあるウェブサイトには書き込むだけでなく、ペアまたはグループでオリジナルのウェブサイトを作らせる。作品を教室に掲示したり、文化祭で展示したりするなど、ビジュアルな要素も積極的に取り入れたい。また、学校のウェブサイトに実際に載せることができれば、生徒にとって大いに励みになるであろう。

表現例

【学校紹介の例】

・ Our school was founded in 1950. So it is 68 years old now. Our school is very small. There are only three classes and about 90 students. All the teachers and students know each other. I hope you will get to know every student in our school soon. Our school is famous for the marathon meet in February. All the students have to run ten kilometers.

・ My school is twenty years old this year. There are four hundred students. My favorite classrooms are the international room and the reading room.

They are on the fourth floor, across from the library. Next to my classroom is a multi-purpose room. All the students use this room when we change into our gym clothes and do special projects.

【ウェブサイトのその他の項目の例】

生徒の実態に応じて、以下のような項目に取り組んでもよいが、まだ Unit 1 でもあり、生徒が無理なくできる範囲にとどめておいてよいだろう。

● School Calendar

April	entrance ceremony field trip
May	midterm exam
June	achievement test field day
July	term exam field day for ball sports
August	summer vacation parent-teacher meeting summer course
September	school festival
October	school trip
November	song contest
December	winter vacation
January	
February	marathon meet
March	graduation ceremony spring vacation

● School Festival

Our school festival Sakura-sai is held in September. It attracts about 3,000 people. The visitors can enjoy the food stalls and performances given by students.

● School Trip

The second-year students went to Okinawa on a school trip in October. They studied the history of Okinawa and visited many historic places. They also enjoyed the beautiful scenery and took many pictures.

● Club Activities

①どのような活動をしているか、②いつ集まっているのか、③だれが入ることができるのか、などの情報を入れるとよい。

The softball team practices from Monday to Friday. New members are always welcome. Come join us and enjoy playing softball.

The SOS (“Sing Original Songs”) club is our school band. Now it has about 50 members, many more members than any other club at our school. We practice in the audio-visual room after school three times a week. We always welcome the students who have no experience playing any musical instruments.

● English Classes

Mr. Robert Smith is our ALT from Australia. The students call him Bob. We enjoy playing a lot of games with him in the classes. He makes our English classes interesting.

その他、外国の人が見ておもしろいと感じる、古文の授業、書道、体育（柔道、剣道など）、音楽（日本の民族楽器）などは少し丁寧に説明すると親切である。

- ・ In the Japanese class, we study classics, both Japanese and Chinese classics.
- ・ We have a calligraphy class twice a week. We start the class by preparing the ink.
- ・ We learn not only Western music but also Japanese folk music. Students can borrow some traditional musical instruments from school.

● Our Teachers

先生にインタビューして、その内容をそのまま載せてもよいし、パラグラフにまとめてもよい。

質問例

- ・ Hello, we are from the Sakura High School Website Club. Thank you very much for making time for us today. First of all, what subject do you teach?
- ・ Why did you decide to become a teacher?

- ・ What do you think is the most important thing in life?
- ・ What do you think of the students at Sakura High School?
- ・ What do you enjoy doing in your free time?
- ・ Thank you very much for sharing your time with us.

その他、交換留学生の紹介や、賞をもらった部活動の写真、学校に住みついた動物などに簡単な英語の説明をつけたり、校歌の英語訳を載せたりしても楽しい。

● 発展活動

自分の高校の情報では information gap が生まれないので、生徒各自の出身中学校について情報交換をし、reporting の活動を行う。

1. 出身中学校についての情報を調べてくるよう指示する。
2. ペアで教科書 p.16 の Task 1 の質問を、過去形にかえてするよう指示する。
3. 4 人グループになるよう指示し、2 で得た情報をもとに、パートナーの出身中学校についての reporting を順番に行う。